

令和8年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題

- ① 住民同士の交流機会が少ない
- ② 高齢者の交流する機会が減少している

事業名

しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）

地域の課題（背景）

- 1) 自治会単位の交流事業は実施しているが、一段と減少して地区全体の交流の場を創ることがより一層必要と思われる。
- 2) 子どもたちをはじめ、各年代が一堂にして集まる機会や、顔を合わせる機会がないと思われる。
- 3) 地域全体で集まり会話し、笑い楽しみ、顔見知りになることで、地域交流が深くなると考えている。
- 4) 人口減少の今だからこそ、地域一体の活動が必要であり重要と思われる。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- 1) 地域交流会の開催：『しもたどフェスティバル』の開催
- 2) 開催日 ： 8月13日(木)に開催を計画
- 3) 会 場 ： ブラザしもたど（駐車場全面＋南濃コミュニティセンターを含む全体）
- 4) 下多度フェスティバル実行委員会に加わり、部会活動の実施。
 - ① 『ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ・スポーツ吹き矢』を実施する。
 - ② 新規イベントを企画検討する。
- 5) 自治会・中学校・小学校に周知して、協力を要請する。
- 6) 中学生・小学生等、各種団体・個人へ参加を募る。

自助（自分でできること）

- 1) しもたどフェスティバル実行委員会に加わって、活動計画の立案を提案する。
- 2) 各種感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。
- 3) 真夏の開催であり、昨今の危険な暑さから、スタッフ・参加者年齢を考慮した対策を検討し実施する。
- 4) 地域の住民ともに、常に新たな企画を検討して積極的に取り組む。

公助（行政や社協に依頼すること）

- 1) 下多度自治会をはじめ、小中学校へ協力をお願いして参加を募る。
- 2) 開催についての後援、場所の使用許可、広域広報等の協力を、海津市教育委員会等へお願いする。

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	高齢者の交流機会が少ない
事業名	
広域サロン事業	
地域の課題（背景）	
海津市全体でも高齢化が進んでいるが、下多度地区はさらに高齢化が進んでいる。 自治会区分の地域で開催されるサロンも、一部でサロンがない地域がある。 現在行われているサロンでは、参加者が減少傾向にある。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○ 地域の多くの高齢者の集いの場となるよう「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて、下多度地区全体を対象に、新年度も「しもたどサロン」を開催する。 ○ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の、感染症にも十分注意を払う。 高齢者の感染は、重症化リスクが大きい。 手洗い消毒やマスク着用など、しっかりと対策を講じ感染の予防に努める。 ○ 弁当を用意、一堂で皆さんで会食することで、地域の皆さんの交流の場を作る。 ○ 参加型の催し物を検討する。 ○ 自治会との連携もしっかりと取り、内容等についても相談する。 ○ サロンの開催内容については、他地区の活動を参考にする。	
自助（自分でできること）	
「しもたどサロン開催案内」を、自治会を通じて回覧と集約を依頼するとともに、各区域のサロンにも参加の推進を依頼する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
市社協に、他地区の活動などの助言をお願いする。	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重点課題	子どもたちの集う機会の創出
事業名	
子どもの活動を豊かにする事業	
地域の課題（背景）	
急速に進む少子化が進むにつれ、下校後はもとより休日でも地域内で子どもたちの遊ぶ姿がほとんど見られない。 年少期の思い出づくりができていない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
小学校および子どもや保護者と連携し、子どもたちに地域の良さが再認識できる活動として、以下の催し物を実施する。 ・ 海津市の歴史など、勉強会の開催 ・ 外来魚の駆除に関する事業 ・ 寺院を利用した縁日の開催	
自助（自分でできること）	
学校・児童・PTA と連携し、多くの児童が参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
ボランティアの育成	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重点課題	通院や買い物等、外出手段のない高齢者の支援
事業名	
高齢者移送サービス事業	
地域の課題（背景）	
下多度地区には、病院、商店、金融機関がなく、コミュニティバスもない。 外出手段がない高齢者は、通院や買い物などで困窮する人が多い。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
【高齢者移送サービス事業】 高齢者のセイフティーネットとして、継続実施する。 令和7年7月度から開始した協力会員に対する謝礼金制度を継続し、協力会員の増員を図る。 【買い物ツアー】 地域の福祉施設「長寿の里・南濃」と協働で、令和7年10月から開始した毎月第3火曜日の午前と午後に各1便で実施している「買い物ツアー」を継続実施する。 当初、民生委員児童委員見守り対象者に限定して開始、その後サロンの利用者にも声掛けをしているが、思ったほど利用人数は延びていない。 更なるPR活動を行い、外出手段のない高齢者の利用拡大を図る。 利便性の向上のため、毎月第3火曜日の午前午後だけの運用を、長寿の里・南濃と交渉し増便を図る。	
自助（自分でできること）	
利用会員には、近くの親族や近隣世帯への依頼、オンデマンドバスや養老鉄道の活用を呼びかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
オンデマンドバスの増車と、利用範囲を近隣市町に拡大して欲しい。	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	高齢者のちょっとした困りごとへの支援
事業名	
生活支援「ちょっとしたお手伝い」事業	
地域の課題（背景）	
高齢化とともに、生活全般にわたり今までできていたことが、困難になることが多くなる。 依頼作業の実績はほとんどが草刈りで、一部庭木の手入れにとどまっている。 他の支援要請がないのが、親族やご近所の支援で足りているなら望ましい状態であるが、他にも困りごとがあることが懸念される。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
高齢化に伴い、高齢者が自分でできなくなった支援活動事業を継続する。 【対象】 民生委員児童委員の見守り対象世帯とする。 1 時間程度できる比較的簡単な作業 民生委員児童委員を通じてリーフレットなどで隠れたニーズの利用を促進する。	
自助（自分でできること）	
ゴミ出しなどの短時間でできる手助けは、ご近所同士が積極的に助け合う「互近助*」活動を行う。 *互近助 防災システム研究所の山村武彦の提唱する運動	
公助（行政や社協に依頼すること）	
従来通り、民生委員児童委員が高齢者宅の訪問の機会に、地区社協の事業の PR をお願いする。	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重点課題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保
事業名	
通学路安全確保事業	
地域の課題（背景）	
少子化が進行し、令和7年度の下多度小学校の児童数は56人、令和8年度は44人と、少子化が急速に進んでいる。 不審者の、路上での声掛け事案がときどき発生している。小学生は、中学生の2倍以上発生している。 下校時の声掛け事案は、登校時の2倍以上発生している。 登校時の見守り活動も大切であるが、とりわけ下校時の見守り活動が重要である。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
交通事故防止および不審者の声掛け抑制のため、従来から進めているスクールガードボランティアによる見守り活動を継続する。 スクールガードボランティアは活動できる日、活動できる場所で見守り活動を実施する。 重点活動日を、第1・第3水曜日の下校時の見守りとする。 年度初めに、下多度小学校と登校日のスケジュールの調整を行う。 登校日の変更や、下校時間の変更などは、学校からスマホアプリ「すぐる」を使って、活動に齟齬がないようにする。	
自助（自分でできること）	
スクールガードボランティア以外であっても、通学路に面した住民は、登下校時に見守り活動に参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重点課題	防災意識の高揚と各家庭の備えの強化
事業名	
南海トラフ大地震に対する各家庭の備えの強化	
地域の課題（背景）	
・南海トラフ大地震の防災対策推進指定区域内にあり、大規模災害が危惧される。 ・地震の危惧に対し、各家庭における備えが不十分である。 令和4年2月に実施した防災アンケートの結果 （各家庭の備えに関する大半の項目が100点満点で、10点台～30点と極めて低い点数であった。）	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○ 自主防災組織への働きかけと提案 ○ 啓発活動の推進 ・防災かわら版 → 2か月に1回発行 ・防災ポスター → 3か月ごとに更新 ○ 研修会の開催 現地視察も含め検討する。 ○ 避難所開設訓練の実施 自治会と協議し検討する。	
自助（自分でできること）	
地域住民自身による「南海トラフ自身への家庭の備え」	
公助（行政や社協に依頼すること）	
① 住民に対し「南海トラフ地震への家庭の備え」の啓発をもっと実施して欲しい。 ② 自治会に対し「南海トラフ地震への家庭の備え」を、地域ぐるみで推進するよう指導して欲しい。	